

平成 28 年度 第 2 回コンクリート常任委員会
議事録（案）

日 時：2016 年 7 月 5 日（水）14:00 ～ 17:00

場 所：JR 博多シティ 10F A+B 会議室

出席者：前川委員長，石田幹事長，氏家，内田，梅原，大内，河野，柳井（代理），鈴木，竹田，田中，土谷，橋本，濱田，松尾（代理），睦好，森，横田，渡辺の各常任委員
綾野，岩波，小林，斉藤，名倉，久田の各常任委員兼幹事，河野オブザーバー

配付資料：

- 2-1 平成 28 年度第 1 回コンクリート委員会常任委員会議事録（案）
- 2-2 日本の基規準を海外に広める方策
- 2-3 コンクリート構造物における品質を確保した生産性向上に関する提案（生産性および品質の向上のためのコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会報告書の概要）
- 2-4 平成 28 年度コンクリート委員会 一般会計 予算（案）
- 2-5 コンクリートライブラリー145・施工性能にもとづくコンクリートの配合設計・施工指針（2016 年版）に関する各地区での講習会開催計画状況
- 2-6 国際会議案内：ICCM2017

議 事：

1. 委員長挨拶

前川委員長より，本日は審議事項が少ないがよい機会であるため，幹事団で相談のうえ，幾つか議論して頂きたいことを審議事項に挙げたので，ぜひ活発なご意見を頂きたいとの挨拶があった。

JCI 年次大会（博多）総務部会長の濱田委員より，歓迎とお礼の挨拶があった。

2. 平成 28 年度第 1 回コンクリート常任委員会議事録の確認

岩波幹事より，資料 2-1 に基づき前回議事録案の説明があり，承認された。

審議事項：

1. コンクリート委員会の今後の国際戦略のあり方

睦好委員より，資料 2-2 に基づき，これまでの国際的な取り組みについて紹介があると同時に，コンクリートの基規準を海外に広める方策（私見）として，以下のような提案があった。

- ・基規準だけではなく，そのオリジナル論文を英文ジャーナルに投稿する。
- ・優秀な留学生を受け入れて教育し，国に返す。
- ・欧米の委員会の委員となり，日本の基規準を紹介するとともに，海外の基規準を取り入れるための努力をする。

本件に関し，以下のような意見交換があった。

- ・国際関連小委員会では，土木学会論文集の要旨を英文で紹介する取り組みを始める予定。また，12 月にジャカルタで示方書セミナーを行うが，戦略的にやるのであれば，示方書改訂小委員会にもキャスティングを相談することが考えられる。
- ・ACT は，まだコンクリートに関する国際誌の中での数値的な評価は低い，少なくとも海外へ発信するルートとしては確立できている。また，日本の論文をもっと紹介する（若手に投稿してもらう）取り組みを行いたい。その際，日本語の論文を英訳したもので構わない。

- ・基規準を英訳して導入を働きかけることはなかなか困難なため、要素技術をスポット的に紹介するのがよいと考える。
- ・構造工学委員会が実施している留学生向けのセミナーや見学会などは、参考にすべきところがある。ただし、予算的な問題のため、東京の大学からしか集めることができていないので、全国的に展開できるとよい。
- ・ISO TC71 の活動では、コンクリート標準示方書は認証された基準となっているが、もっと簡易に設計できる基準が要求されている面もあり、「Simplified design standard for concrete structures」が編纂された。また、日本の水道用 PC タンクの基準は簡易設計法として ISO に導入することができており、仕様の簡易設計法は、海外に導入することができると考えられる。
- ・国際化とは自国の枠組みや技術を海外に展開することではないか？英語はそのツールで、英訳が目的とならないように注意すべき。
- ・大学が国際展開派と地域貢献派にカテゴライズされつつあるが、地域貢献を目標とする大学でも海外のジャーナルに投稿しなければ評価されないだろう。
- ・アジアでは設計と施工が別々の基規準であることも多く、また技術者のレベルも様々である。アジアでのニーズは個々の汎用的な技術であったりする。
- ・頂いた意見を踏まえて、国際関連小委員会と幹事団でアクションプランを検討してみたい。

2. 生産性および品質の向上のためのコンクリート構造物の設計・施工研究小委員会報告書
 名倉幹事および河野オブザーバー（委託側幹事）より、資料 2-3 および回覧資料に基づき、報告書の概要について説明があった。

- ・コンクリート構造物の構築にあたり、施工性（生産性）向上および品質確保を阻害している技術的な要因や示方書・発注仕様の要因を明確にして、その対応策を示した。
- ・プレキャストコンクリートに関しても、その適用が円滑に進むような資料を作成した。
- ・具体的な提案は、「発注者の仕様等に対する提案」、「標準示方書類に対する提案」、「研究開発に対する提案」に分類した。

本件に関し、以下のような意見があった。

- ・「生産性向上」とあるが、作業が増えるのではないか？そもそも、土木工事の場合は、発注者の視点か納税者の視点か、個々の工事か事業者単位での視点か等、どの視点で「生産性向上」を考えるかで異なる。やるべきことをやるというのでは、従来と変わらないのではないか？
 →今回は計画・設計段階で検討を行うことで効果がある場合を示した。
- ・提案を全部実施することは難しいので、運用規定をうまく考えていく必要がある。
 →運用についても記述を検討する。
- ・単年度予算に関する弊害や、プレキャストコンクリートの接合部について、しっかり記述してほしい。
 →とりまとめの際に検討する。
- ・プレキャストコンクリートのイニシャルコストの増加についてはどう記述しているのか？
 →形状の規格化や計画段階での検討等の提案を行っている。
- ・機械式継手の同一断面での全数継手は、本来やらないことが原則であり、報告書の記述は書き過ぎではないか？
 →根拠が不確実なものについては、研究開発への提案としている。
- ・「生産性向上」とは、多少コストが増加しても省力化になるということではないか？コスト低減も含まれるのか？

→「生産性向上」の定義は定量化できないこともあり、また前提条件も将来的には変動するため、あいまいな扱いをしている。定義については再度検討する。

常任委員からの意見書は7月26日を提出期限とする。

3. 低炭素型セメント結合材の利用技術のあり方

混和材料に関する2種委員会が2件立ち上がることを踏まえ、渡辺委員より、低炭素型セメント結合材の利用技術のあり方について紹介があった。

- ・低炭素型セメント結合材の利用技術に関して共同研究を実施してきた。
- ・品質として特に着目した事項としては、ワーカビリティ（フレッシュコンクリートの特性の経時変化）、中性化に対する耐久性、凍結融解抵抗性等があげられ、今後の委員会活動で検討していく予定である。

4. 平成28年度予算計画

石田幹事長より、資料2-4に基づき説明があり、了承された。

5. その他

特になし。

報告事項：

1. 報告会・講習会開催報告・開催案内

(1) 「施工性能にもとづくコンクリートの配合設計・施工指針（2016年版）」講習会

岩波幹事および橋本委員より、資料2-5に基づき、講習会の地区開催についての紹介があり、各地区の講習会へ参加のお願いがあった。

(2) 汚染水貯蔵用PCタンク検討小委員会（228委員会）の成果報告会

梅原委員より、5月26日の成果報告会の開催報告があった。会場は満席で盛況であった。今後、本成果が実際に利用されることを期待しているとのこと。

2. その他

(1) 国際会議の紹介（10th ACI/RILEM International Conference on Cementitious Materials and Alternative Binders for Sustainable Concrete）

綾野幹事より、資料2-6に基づき、国際会議の紹介があった。積極的なアブストラクト投稿の依頼があった。

次回開催日：

第3回コンクリート常任委員会・第1回コンクリート委員会合同会議

日時：2016年9月6日（火）14時～17時（終了後、幹事団主催の懇親会を開催予定）

場所：ウェスティンホテル仙台

議題は8月19日（金）までに幹事へ

以上